

## ～アケビ～

和名:アケビ

学名:*Akebia quinata* Decne

Ranunculales(キンポウゲ目)Lardizabalaceae(アケビ科)*Akebia*(アケビ属)



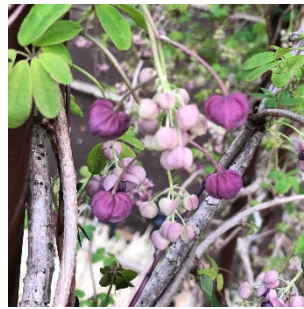
**形態:**落葉つる性の木本、葉は互性、掌状複葉で小葉は5枚、4～5月に総状花序を出し、淡紫色の雄花を花序の先に、雌花を下部に付ける。液果の果肉は秋に成熟し縦に開裂する。

**成分:**オレアナン系トリテルペノイドサポニンのアケボノシド (oleanolic acid glycoside, hederagenin glycoside)

↑東京理科大学薬草園(2019/4/11)



掌状複葉(小葉5枚)



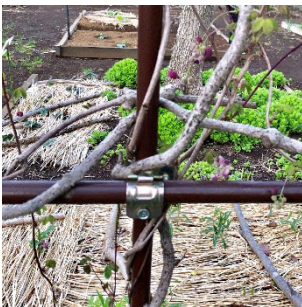
総状花序



雄花



雌花



薬用部位

**生薬名:**モクツウ(木通)

**薬用部位:**つる性の茎を横切したもの

**産地:**日本各地

**用途:**消炎性利尿薬、通経薬

**漢方処方:**消風散、五淋散、通導散

**異名別名:**通草、白木通、三葉木通

**同類植物:**ミツバアケビ(*A. trifoliata* Koidz)ゴヨウアケビ(*A. pentaphylla* Makino)

- ・日本に自生しているゴヨウアケビはアケビとミツバアケビの雑種と推定されている。
- ・以前中国では木通という名称で、キダチウマノスズクサを基原植物とする「関木通」が一般的に流通していたが、腎障害を起こすアリストロキア酸が含有されていることが判明し、使用禁止となった。
- ・「神農本草経」や「傷寒論」に記載の通草とは木通のことだが、現在で通草と称しているものはウコギ科のカミヤツデ (*Tetrapanax papyre-ferum*)の髓のことである。

<参考文献>

第6版天然医薬資源学 竹田忠紘他 廣川書店/最新薬用植物学 奥田拓男他 廣川書店/

漢方294処方生薬解説 その基礎から応用まで 根本幸夫 じほう/

2019.4.12 4YM MT